

# ぼくが家族のためにできること

新見市立野馳小学校

五年 藤 村 海 史

ぼくのお父さんは車屋さんで働いている。暑い日も寒い日も外で一生けん命仕事をしている。お父さんはお客様が安全に車に乗れるように点検をしたり、修理をしたりしている。お父さんはとても車が好きで、いろいろな車のことを知つていて、ぼくに教えてくれる。好きなことを仕事にしているお父さんは大変そうだけど楽しそうだ。

お母さんは病院で看護師をしている。お母さんは仕事の話をあまりしないから、どんな仕事をしているか知らない。

ぼくが二年前に入院した時に、看護師さんに点滴をしてもらつたり、熱や血圧を測つてもらつたりしたことがあつた。入院するのは嫌だつたけど、優しく話をしてくれたり、採血の後はほめてくれたりしてうれしかつた。お母さんは人の役に立つ仕事をしているんだなと思った。ぼくたちがけがをした時には、すぐ手当てをしてくれてとても心強い。

お父さんもお母さんも仕事がないのがしそうだけど、家に帰つてからも家事をしたり、ぼくたちの宿題や提出物を見たりして、寝る前までたくさんのことをしていて大変そうだ。お母さんがご飯を作つている時に、お父さんは洗たく物を取りこんでいる。お母さんが洗い物をしている時に、

お父さんはそうじをしたり、ぼくたちと遊んでくれたりしている。お父さんとお母さんはおたがいに何も言わないけど、できることを当たり前のように協力してやつている。お父さんが仕事でおそくなる時やお母さんが夜勤でない時は、一人でしないといけないので、いつもより寝るのがおそくなる。そんなお父さんとお母さんを見て、ぼくが手伝いをしたら、お父さんとお母さんは早く寝れるかもしれないと思った。

ぼくはまず洗たく物をたたんでみた。意外ときれいにたたむのが難しくて時間がかかつた。次にお風呂にお湯を入れてみた。浴そうの栓がしまつていなくて、お湯がたまつていなかつた。時間がかかつたし、失敗したけど、お母さんは、

「手伝つてくれてありがとう。」

と言つてくれた。

お母さんが、仕事から帰つてきたお父さんに、ぼくが手伝つたことを話すと、お父さんもぼくをほめてくれた。ぼくはちょっと照れくさかつたけど、お父さんとお母さんの役に立てうれしかつた。

お父さんとお母さんは仕事をがんばつてゐるから、家では少しでも長い時間休んでほしい。ぼくが手伝つたら、まだまだ時間がかかるけど、二人より三人でした方が早く事が終わるし、弟たちも手伝えるようになつたらもつと早く終わるかもしねない。ぼくが弟たちのお手本になつて、家族が協力して助け合える明るい家庭にしていきたい。